



「理解する」といふ言葉には、

様々な意味があります。これまでの「こころのぼ」の中では「人の気持ちを考えること」「物事についての情報を得ること」「現状や実態として知り、考えられるようにすること」「思い出したり実行できるようなにするさま」などの意味で「理解する」を用いてきました。そこで今回は「人の気持ちを考える」という意味での「理解」について一つの話を紹介します。

第2次世界大戦中のヨーロッパの話です。ある村が壊滅的な被害を受け、生き残った青年は必死で近くの被害を受けていない村に逃げました。青年は村が受けた被害、これまでの道のりなど、いろいろなことを村人たちに話しました。その村は裕福で何の不自由もない村だったので、精一杯のおもてな

しをし、「いつまでもこの村にいていいですよ」と青年を受け入れ、衣食住に関するもてなしを続けました。こうして月日が流れたある日、青年は「受け入れられているのに寂しい」と感じて自分の気づきました。村人たちはみんな優しく、不自由のない生活を与えてくれています。それなのに「この埋められない寂しさはなんだろう」。青年のこの思いは日に日に募っていきます。

ある時、青年はこの村を出て旅にすることを決心します。村人たちは心配し青年に留まるように言いますが、青年は出て行きました。旅を続けた後、青年は戦争の被害を受けつつもかろうじて生き残った村にたどり着きます。その村は自分たちの生活自体も厳しく、何もないにもかかわらず、青年を快く迎え入れました。青年は最初の村に着いた時と同じように、これまで話をしました。村人たちは「何もなし、何もできないけどいつまでもこの村にいていいですよ」と、青年に伝えました。青年は村人たちと一緒に

ある日、村の長老が青年のところに来て言いました。「君はなんでこの村にいるのかね」。青年は「僕にもできることがありません」と答えました。長老は続けてこう言いました。「君が経験したことや悲しみは私たちも同じように経験したことだ」と。

この話で伝えたいことは、最初の村も手厚く受け入れていたものの、相手の背景や心情的に「理解する」に至っていなかったために、青年の寂しさにつながったのではないか、ということなのです。

英語でいう「under-stand」、ドイツ語では「ver-stehen」など、「理解」を意味する言葉は、昔は「下に立つ」「傍らに立つ」という意味があったそうです。今では英語もドイツ語も明確な意味は失われてしまい、単なる「理解する」という意味になっ

ていますが、見方を変える、立場を変えるということが「理解する」に近づけるといえるのではないのでしょうか。

全く同じ経験をすると立場になるということは難しいことだとしても、相手の背景や気持ちを理解しようとする気持ちを大切にしていきたいですね。

中央公民館講座案内

【申し込み・問い合わせ】 ☎45-8446

内 容		と き	そ の 他 (費用等)	定 員
パソコン	応用ワード教室 (全5回)	1月9日(金)・14日(水)・16日(金)・21日(水)・23日(金) 14時から16時まで	費用:テキスト代 1,296円 講師:本木 敦子氏 ※公民館設置パソコン (Windows Vista) を使用します。持参のパソコンは使用できません。	12名
	応用エクセル教室 (全5回)	1月13日(火)・15日(木)・20日(火)・22日(木)・27日(火) 14時から16時まで		
ホテル音羽の森シェフによる料理教室 (全4回)		1月14日(水)・21日(水)・28日(水)・2月4日(水) 18時30分から 20時30分まで	費用:材料費 4,000円 (4回分) 講師:ホテル音羽の森フレンチシェフ 高柳 雄輝氏 ※初めて受講する方優先	20名

※対象者:町内在住者または在勤者

※1月5日(月)8時30分より、中央公民館窓口または電話で申し込んでください。定員になり次第締め切りとなります。